



1. ポンプ車の部で優勝した保原支団第5分団 / 2. 小型ポンプの部で優勝した梁川支団第2分団 / 3. 指揮者を務めた八巻団員 / 4. 標的に向かって放水する齋藤団員（左）と「とび口」を構える大竹団員（右）

「女性団員が初出場」

6月25日、保原本庁舎駐車場で伊達市消防団操法大会が行われ、ポンプ車の部、小型ポンプの部合わせて20分団が出場し、消防技術を競い合いました。大会はポンプ車の部で保原支団第5分団、小型ポンプの部で梁川支団第2分団が優勝しました。また、今回は初めて女性団員が出場。八巻ひろえ団員（梁川支団第5分団）、齋藤春美団員（月館支団第1分団）、大竹淳子団員（霊山支団第4分団）が見事な小型ポンプ操法を披露し、会場から大きな拍手が送られました。競技を終えた3人は「女性団員も増えつつあるので、これからも地域のために共に活動していきたいと思えます。女性が積極的に参加できるように広報活動にも力を入れたいです。」と語りました。

市長日誌 「廃校舎の利活用にあたって」

梁川小学校へ統合になった5つの小学校の子ども達は元気に登校しているようで安心というところですが、今後は不要となった校舎などの活用策が課題です。

小学校は地域コミュニティの核としての存在でもありませんが、単純な利活用ではなく、その役割も担えるよう考えていく必要があります。そこで担当部は知恵を絞って、「サウディング方式」という新しいやり方で、市内外の企業などを

中心に地域振興に資するような利活用を公募しており、応募予定企業などの現地見学会も終わったとの報告を受けましたので、私も現地視察に出かけて行きました。

校舎に入ると、いずれも立派な建物でもつたいないという気持ちと、今さらながら先生や児童の居ない学校というものの寂しさや違和感を強く感じ、早く新しい役目を与えて、人の声がする施設になるようにしなければと強く思ったところです。

校舎内を見てまわっている時、ちよどスクールバスが到着し、降りた児童の数人が人影が無いはずの校舎に私達が居

るのでやってきました。廃校後、余り時間も経っていないのですが、校舎内には歴代校長の写真や地域の人が寄贈した文庫などが残されているので懐かしそうでした。子ども達や地域の人達にとって旧小学校舎は故郷の思い出そのもので、決して忘れることの出来ないものですから、利活用の妨げにならない範囲で、地元の人がいっても訪れることが可能な方策も考えたいと思いました。

昨年の「少年の主張」で当時白根小6年生の霜山花穂さんが発表した「白根にかかる三つの虹」を読みました。彼女は、白根の三つの虹とは、「人々の笑顔」と「地域の連合大運動会」、それに「もうこしフェスティバル」だ、と言っています。改めて、地域の絆を育んできた中には、小学校の運動場と講堂が大きな役割を果たして来たということに気付かされました。

今後、廃校舎などの利活用に応募して下さる企業や団体の皆さんに、こうした地域の人々の思いを理解して頂き、利活用に当たっては地域の振興にも取り組んで頂くよう、市としても努めて参りたいと思えます。

